

ヒューリスティックの視点から見た中国人留学生の 日本留学選択の要因に関する研究：吉林省出身の留 学生とその両親に対する調査を通して

王, 揚

<https://hdl.handle.net/2324/7182547>

出版情報：Kyushu University, 2023, 博士（学術）, 課程博士

バージョン：

権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏 名 : 王 揚

論 文 名 : ヒューリスティックの視点から見た中国人留学生の日本留学選択の要因
に関する研究—吉林省出身の留学生とその両親に対する調査を通して—

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

中国の経済が急速に発展する中、日本の高品質な教育や研究環境を求め、多くの中国人留学生が日本を留学先として選択してきた。しかし、P. Bodycott (2009) の研究によれば、留学の動機は心理的要因や歴史的背景に大きく影響され、特に両親の意識が子どもの留学先選択において重要な役割を果たしていると考えられる。また、選択行動論の視点から見ると、人々は選択をする際、無意識的に短絡的な判断方法としてヒューリスティックを利用するとされている。しかし、留学先の選択という重要な決定において、ヒューリスティックがどのように影響しているのか、これはまだ十分に探求されていない。本研究は、中国人留学生が日本を留学先として選択する際、その動機形成に影響を及ぼす要因を包括的に理解することを目的とする。特に、ヒューリスティックという認知的判断方法に焦点を当て、これが現代の中国人留学生の留学先選択における情報処理と判断にどのように作用しているかを解明する。従来の研究がある特定の段階の留学動機解明に集中する中、本研究は、留学決定の起点となる両親、留学の準備段階にある中国人留学予備生、そして実際に日本に留学中の中国人留学生を対象に、日本留学という選択に影響する要因相互の関係性を考察する。これにより、留学前に最初に生じる日本留学への先入観やバイアスが留学後の日本選択への認識にどのように作用するのかを解明する。この点は先行研究と大きく異なる。さらに、本研究は定量的および定性的方法を組み合わせたミックス法を採用し、PAC分析法 (Personal Attitude Construct) を導入することで、留学生特有の心理構造と態度を深層的に探求し、従来の定量的手法では捉えきれない要因を解明する。具体的には以下の3つの研究課題に焦点を当てる。

1. 両親による子どもの留学先選択にヒューリスティックはどのように作用するのか
2. 中国人留学予備生の日本留学選択にヒューリスティックはどのように作用するのか
3. 在日中国人留学生の留学前の日本留学へのバイアスは、留学後の日本選択への認識にどのように作用するのか

上記の課題を明らかにするため、本研究は吉林省出身の中国人留学生の両親 300 名を対象としたアンケート調査を通じて、日本に対する具体的な態度や認識を定量的に捉え、その中から特に代表

的な2名の両親を選び、より詳細なPAC分析を実施した。一方、中国人留学予備生3名と在日中国人留学生3名に対しては、PAC分析を実施した。このように、定性分析と定量分析を組み合わせることで、中国人留学生とその両親の日本選択の背後にある動機や態度を包括的に理解する。

まず、第一の研究課題に関し、二項ロジスティック回帰分析による定量分析の結果では、中国人留学生の両親の年齢及び日本評価と、子どもを日本に送るか否かの決定との間に正の相関関係が示された。両親は留学決定の重要な起点として機能し、彼らの価値観、経験、そして教育に対する期待は、子どもが留学先を選択する際の基盤となる。また、彼らはヒューリスティック、すなわち経験や直感に基づいた速やかな判断を用いて、子どもの留学先を選択することが示された。

第二の研究課題では、中国人留学予備生が日本を選択する際、家族や教師からの影響、日本の文化や教育への魅力など、多くの要因が彼らの留学動機に強く影響していることが確認された。また、ヒューリスティックの視点から、これら中国人留学予備生は情報を処理し、判断を下す過程で、自身の経験やメディアの影響、経済的動機、さらには留学仲介会社の情報など、特定の要素に基づいて情報を処理し、判断を下す傾向があることが示された。留学の準備段階では、これらの要因が留学先選択における彼らの優先順位や選好に深く関与しており、留学に関する彼らの期待や目標を形成していることが示唆された。

第三の研究課題において、在日中国人留学生が日本の留学を選択した背後には、身近な人々、例えば、日本への留学経験を持つ教師や日本にいる親戚からの助言や勧めが大きく影響していることがわかった。これは、一部の先行研究とも一致している。加えて、調査結果からは、在日中国人留学生は、実際の留学体験を通じて、留学前に形成された先入観と実際の体験の間のギャップ（バイアス）に直面し、新たな認識や価値観を形成する。こうした彼らが直面する文化的適応、学習環境、人間関係などの要因は複合的に判断され、日本選択への認識に対する再評価や調整を促すことが示唆された。

結論として、中国人留学生及び両親が日本を留学先として選択する際の要因は、複合的で多様な要因に基づいており、そうした複雑な情報の処理や意思決定の加速にヒューリスティックが大きく関与することが明らかになった。特に、留学後に情報処理・判断の要素として留学経験に基づく認識や価値観が加わり、日本留学への再評価や調整が促されていることを示した点は、本研究独自の知見である。以上のように、留学先の選択過程におけるヒューリスティックの作用と、バイアスの生じる原因及び調整を理解することは、留学生の支援や政策立案において、新たな視角や知見を提供するものである。